Panasonic

施工説明書

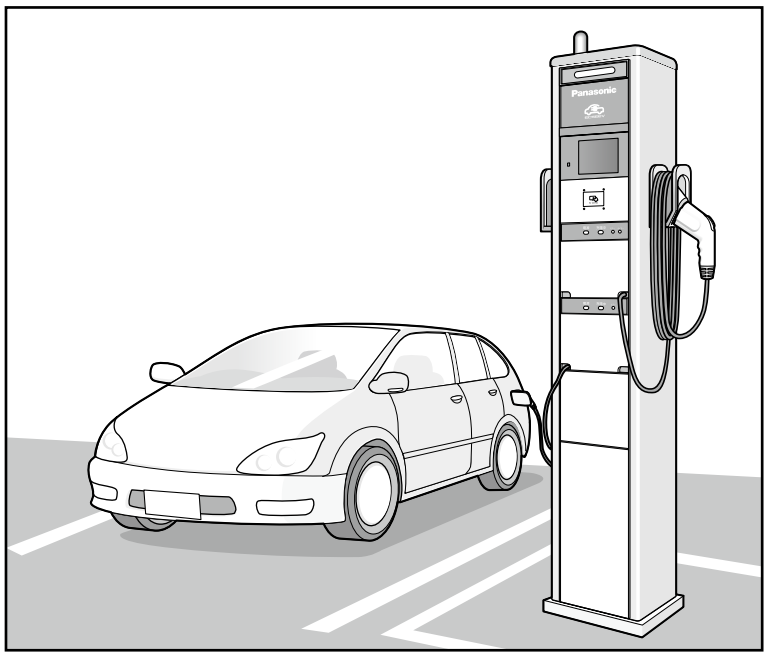
EV・PHEV充電用 充電スタンド

品番 AF-XC300N1, AF-XC300W1
AF-XC330C1, AF-XC330W1
AF-XC330R1, AF-XC330N1

EV・PHEV充電用 充電スタンド

エルシーヴ
ELSEEV

高機能タイプ



■この施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく安全に施工してください。

■据え付け工事の前に**「安全上のご注意」および「施工上のご注意」（2〜4ページ）を必ずお読みください。**

■配線工事は、必ず「電気工事士」の資格のある方が施工してください。

■配線工事は、「電気設備の技術基準」および「内線規程」に基づいて施工してください。

■この施工説明書は取扱説明書とともにお客様で保管していただくようにしてください。

施工説明書、取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書の内容を守らなかったために発生した不具合については、保証期間内であっても無料修理の対象外となります。

もくじ

はじめに
安全上のご注意 2
施工上のご注意 4
製品構成と各部の名前 6
仕様 7
外形寸法 8

据え付け工事
据え付け場所の制約 9
基礎工事 10
据え付け手順 11

電気工事
電気配線工事 13
充電ケーブルの取り付け 16
ディップスイッチの設定 17
FOMA通信用SIMカードの取り付け 20

施工確認
動作確認（引き渡し前の確認） 23
施工確認図 25
施工確認チェックリスト 26

安全上のご注意　必ずお守りください

●人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

⃠	してはいけない内容です。
❗	実行しなければならない内容です。

⚠警告

⃠ 禁止

- **●活線工事はしない**
  感電の原因となります。
- **●製品の分解・穴をあけるなどの改造はしない**
  感電・火災の原因となります。
- **●可燃性ガスや引火物の近くに設置しない**
  火災の原因となります。
- **●冠水するところには設置しない**
  感電・漏電事故の原因となります。

❗ 必ず守る

- **●施工は、施工説明書通りに正確に行う**
  転倒の原因となります。
- **●充電スタンド本体にはD種接地工事を行う**
  感電の原因となります。
- **●必ず充電ユニット1台ごとに、漏電ブレーカを設置し、専用回路とする**
  感電・火災の原因となります。
- **●漏電ブレーカの動作を確認する**
  感電・火災の原因となります。
- **●端子ねじは推奨締付けトルクで確実に締め付ける**
  接続不良は、発熱・発火の原因になります。

❗ 必ず守る

- **●裏板を開けディップスイッチを操作する場合は、必ず漏電ブレーカを「切」にしてから作業する**
  感電の原因となります。
- **●充電電流設定をするときは、電源線や漏電ブレーカの許容電流を超えない値に設定する**
  発熱・発火の原因となります。

AF-XC300W1、AF-XC330C1、AF-XC330W1の場合

- **●病院など、使用を禁止された区域では、本装置を設置しないでください**
  電子機器や医用電気機器に影響を及ぼす場合があります。医療機関内における使用については各医療機関の指示に従ってください。
- **●高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くには、本装置を設置しないでください**
  電子機器が誤作動するなどの影響を与える場合があります。
  ※ご注意いただきたい電子機器の例
  補聴器、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他医用電気機器メーカもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

⚠注意

禁止

●**当社指定部品以外の取り付けは行わない**

強度不足など不具合が発生する原因となります。

●**製品の上に乗ったり、もたれかからない**

転倒してけがをしたり、製品が破損する原因となります。

●**絶縁抵抗計（メガー）を極間で使用しない**

極間に電子部品が接続されており、製品が破損する原因となります。

必ず守る

●**荷崩れしないように保管する**

縦置きなど不安定な状態で保管すると、荷崩れしてけがの原因となります。

●**工事作業中は、手袋などの保護具を着用する**

けがをする原因となります。

●**充電スタンド本体の運搬・設置作業は2人以上で行う**

落下・転倒によるけがの原因となります。

必ず守る

●**運搬、設置の際は周囲の安全を十分確認する**

落下・転倒によるけがの原因となります。

●**コンクリート基礎は乾くまで十分養生する**

傾きの発生や転倒の原因となります。

●**地際部には植栽などの土がかからないように施工する**

さびなどの腐食が促進され、製品倒壊の原因となります。

●**充電ケーブルは、地面に触れないように巻き付ける**

足の引っ掛けや充電ケーブルが傷つく原因となります。

●**充電ケーブルは、推奨巻き回数になるように巻き付ける（約4巻き　1巻き：約1.5 ～ 2 m）**

推奨巻き回数を超えて巻き付けると、充電ケーブルが屈曲して、被覆が破れたり断線するおそれがあります。

感電・発火の原因となります。

■医用電気機器近くでの取り扱いについて（AF-XC300W1、AF-XC330C1、AF-XC330W1の場合）

■本記載の内容は、「医用電気機器への電波の影響を防止するための携帯電話端末等の使用に関する指針」（電波環境協議会）に準拠したものです。

⚠警告

必ず守る

●植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部から本装置のアンテナを22 cm以上離して使用する。

電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の動作に影響を与える場合があります。

●医療機関に設置する場合は、次のことを守って使用してください。

- 手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視病室（CCU）付近には、本装置を設置しないでください。
- 病棟内では、本装置を設置しないでください。
- ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本装置を設置しないでください。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。

●自宅療養など医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカなどにご確認ください。

電波により医用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

施工上のご注意

機器の施工には法令で定められた資格が必要です。

●**万一、この施工説明書、取扱説明書に従わず工事・使用された場合の事故や故障などについては、責任を負いかねます。**

●**据え付け工事完了後、巻末のチェックリストに従って施工確認および動作確認をするとともに、取扱説明書にそってお客様に使いかた・点検・お手入れのしかたを説明してください。**

●**次の場所には設置しないでください。**

- 正しい基礎工事がされていない場所。
- 階段・避難口などの付近で避難の支障となる場所。
- 風速40 m/s以上の強風が吹く場所。
  設置する場合は、別途強度計算を行い、基礎工事などを見直してください。
- 使用温度範囲（−10 ℃〜+40 ℃）を超えるおそれのある地域。
- 橋梁など常時振動があり不安定な場所
- AF-XC300W1、AF-XC330C1、AF-XC330W1の場合、NTTドコモFOMAサービスエリア外
  トンネル・地下・建物の中など電波の届かないところ、屋外でも電波の弱いところ

●**ユニットを増設する場合は、あらかじめ増設台数分の先行配管が必要です。**

増設するときは、別途ユニットとそれぞれの漏電ブレーカをご準備ください。

●**取付ベースの固定には、おねじ式のステンレス製アンカーボルトをご使用ください。**

●**据え付け場所の制約（☞9ページ）に従って作業スペースを確保してください。**

●**製品内での分岐配線はできません。**

●**配線は、地中埋設工事になりますので、300 mm以上埋設し必ずケーブル・保護管を使用し、地中での接続はしないでください。**

また車両その他重量物による圧力がかかる地中埋設工事は、JIS C 3653（電力用ケーブルの地中埋設の施工方法）によって施工してください。

●**車のぶつかるような場所をさけて設置してください。**

●**車が通るところに設置する場合は必ず防護柵や車止めなどを設置して、製品への衝突対策をしてください。**

●**傷は腐食の原因となりますので、必ず補修塗料などで防さび処理をしてください。**

●**本製品に落下など強い衝撃を加えると故障、傷の原因となりますので丁寧に扱ってください。**

●**開梱作業時は、刃物などで製品に傷をつけないよう十分に気をつけてください。**

●**施工後、特殊工具は、取扱説明書・施工説明書とともに、お客様にお渡しください。**

端末機器技術基準適合認定および特定無線設備の技術基準適合証明等

（1）端末機器技術基準適合認定

本製品には、電気通信事業法第56条第2項の規定に基づく端末機器の設計について認定を受けた以下の設備が組み込まれております。

●機器名称：FOMA UM02-KO、認証番号：A08-0420001

（2）特定無線設備の技術基準適合証明等

本製品には、特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則第2条第1項第11号の3に規定される以下の設備が組み込まれております。

●機器名称：FOMA UM02-KO、工事設計認証番号：001XYAA1511

本装置のご使用にあたって

■AF-XC300W1、AF-XC330C1、AF-XC330W1でFOMAを使用する場合

- 本装置をFOMAネットワークへ接続するためには、「FOMAサービス」のご契約が必要になります。
- 本装置に使用するFOMAカードはNTTドコモが指定したものを使用してください。また、本装置の電源ONの状態でのFOMAカードの抜き挿しは、決して行わないでください。
  FOMAカードの破損の原因となります。
- 本装置は無線を利用しているため、トンネル・地下・建物の中など電波の届かないところ、屋外でも電波の弱いところおよびFOMAサービスエリア外ではご使用になれません。
- 本装置は電波を利用している関係上、第三者により通信を傍受されるケースもないとはいえません。しかし、FOMAの通信方式はすべての通信について秘匿処理をしていますので、第三者が傍受したとしても、意味が不明なデータとなります。
- 本装置の誤動作、不具合、あるいは停電時などの外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損失については、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 磁気カードなどを本装置および外部アンテナに近づけないでください。
  キャッシュカード、クレジットカード、テレホンカード、フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。

■AF-XC300W1、AF-XC330W1、AF-XC330R1で使用できるICカードについて

- FeliCa規格に準拠したICカードをお使いください。ただし、すべてのメーカーのICカードの動作を保証するものではありません。詳しくは、販売店または保守契約店までお問合せください。

■AF-XC300W1、AF-XC330W1、AF-XC330R1に内蔵しているICカードリーダについて

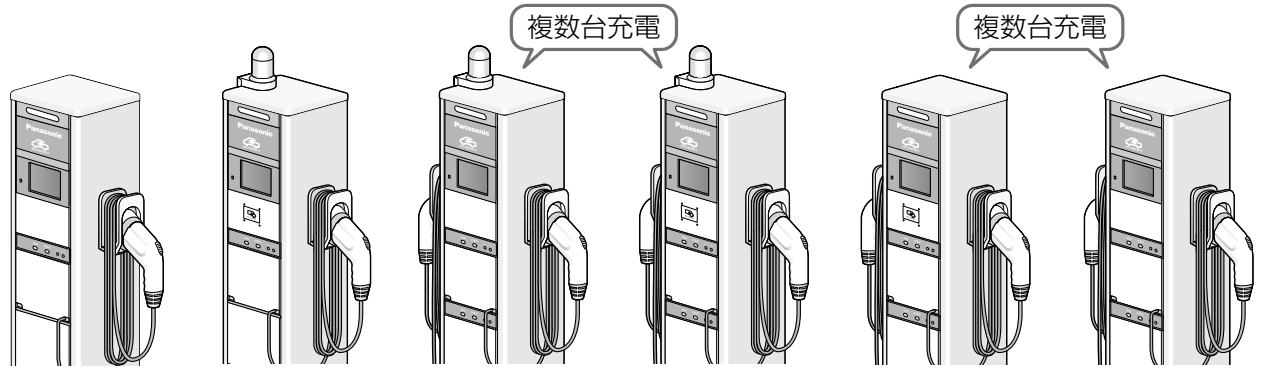
- 本装置に内蔵しているICカードリーダは、総務省指定第HC-11005号の型式指定を受けた総務省令第96号等で定義される「誘導式読み書き通信設備」です。本装置を許可無く改造することは電波法令に違反する場合がありますのでご注意ください。（違法改造したものを使用すると、電波法により罰せられることがあります。）

登録商標・商標について

- FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。
- FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。
- 「FOMA」、「FOMAユビキタスモジュール」、「FOMA」ロゴはNTTドコモの商標または登録商標です。
- その他、本書に記載している会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

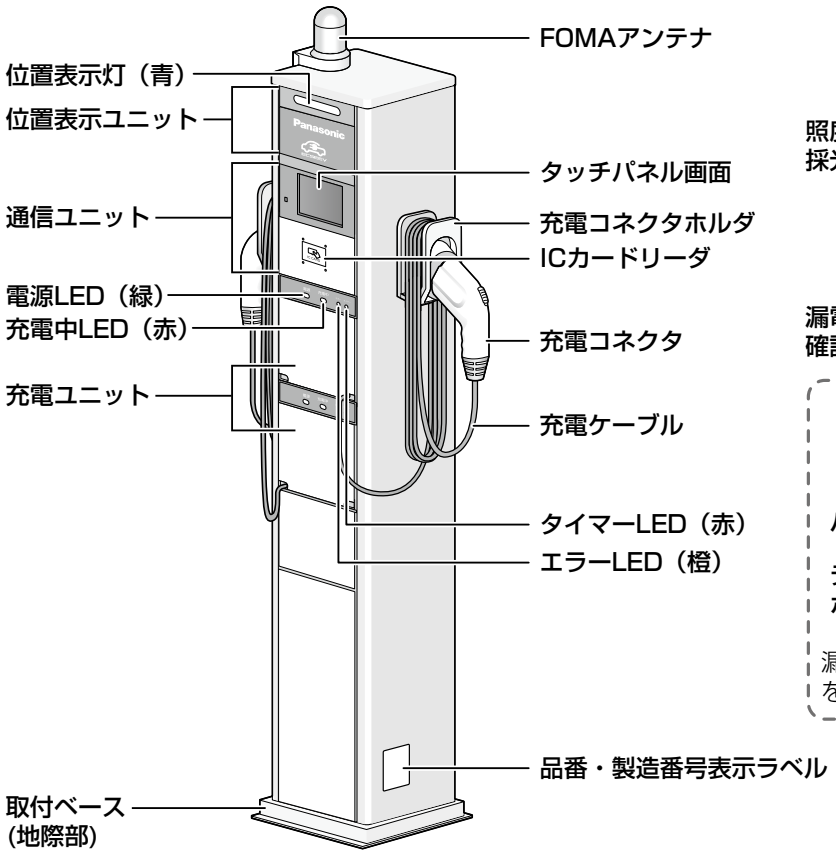
製品構成と各部の名前

「AF-XC300N1」、「AF-XC300W1」、「AF-XC330C1」、「AF-XC330W1」、「AF-XC330R1」、「AF-XC330N1」の6タイプがあります。
本説明書では「AF-XC330W1」の図を用いて説明をしております。

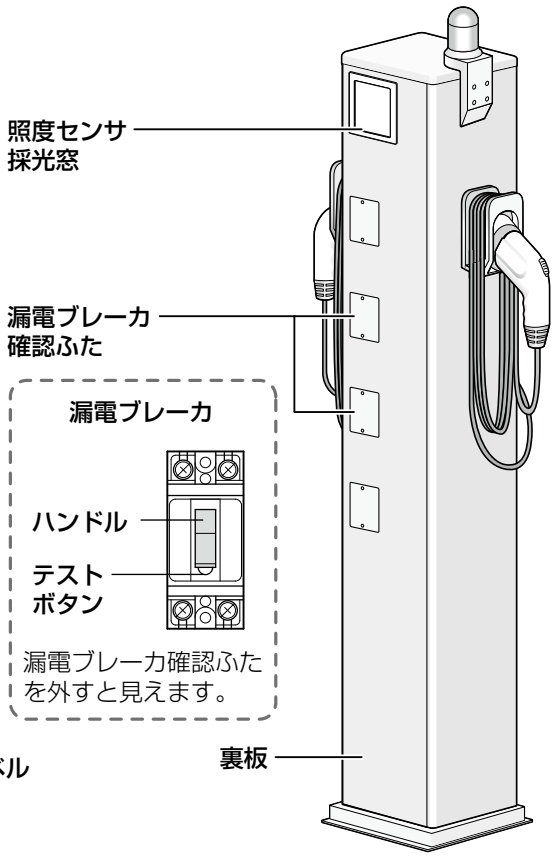


品番：AF-XC300N1　品番：AF-XC300W1　品番：AF-XC330C1　品番：AF-XC330W1　品番：AF-XC330R1　品番：AF-XC330N1

充電スタンド本体



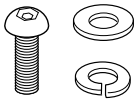
《正面》



《背面》

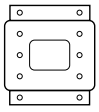
その他同梱品

特殊工具（1個）

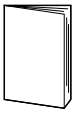


特殊ねじ
平ワッシャ
バネ座金（8個）

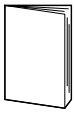
本体−ベース固定用
M10六角ボルト
スプリングワッシャ（各6個）



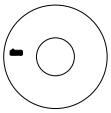
取付ベース（1台）



取扱説明書（1部）



施工説明書（1部）（本紙）



ユーティリティーソフト（1枚）（CD-R）

仕様

充電スタンド本体仕様

品番	AF-XC300N1	AF-XC300W1	AF-XC330C1	AF-XC330W1	AF-XC330R1	AF-XC330N1
充電ユニット	AC200 V 50/60 Hz 20 A×1ユニット		AC200 V 50/60 Hz 20 A×2ユニット			
漏電ブレーカ	BJS3022N×1個 定格電流30 A 感度電流15 mA		BJS3022N×2個 定格電流30 A 感度電流15 mA			
質量 （取付ベース込み）	約50 kg		約55 kg			
定格消費電力 （車両充電容量を除く）	20 W以下					
使用温度範囲	−10 ℃～+40 ℃					
寸法 （突起部含まず）	幅 285 mm　奥行 236 mm　高さ 1500 mm（取付ベース高さを含む）※1					
防水防塵	IP44相当（充電用コネクタを充電コネクタホルダに収納した状態）					
充電ケーブル長	約7 m					
設置方法	ベースプレート方式					
設置場所	屋内・屋外（日本国内に限る）					

※1　充電コネクタ1個装備につき本体幅＋176 mmとなります。

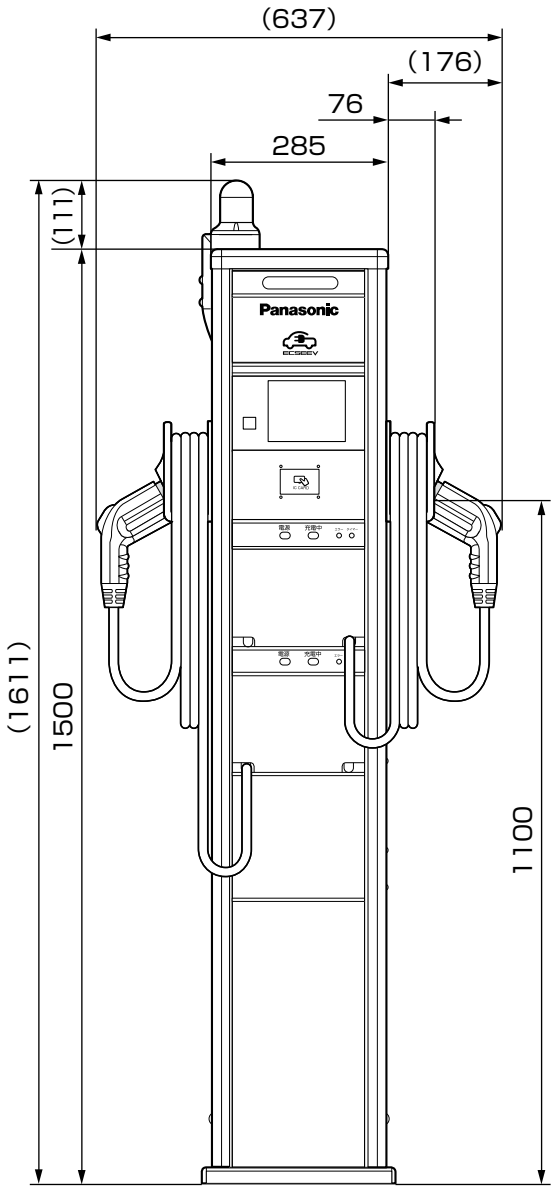
構成

品番	AF-XC300N1	AF-XC300W1	AF-XC330C1	AF-XC330W1	AF-XC330R1	AF-XC330N1
充電コネクタ数	1個		2個			
タッチパネル （5.7インチカラー液晶）	○	○	○	○	○	○
ICカードリーダ		○		○	○	
3G通信		○	○	○		
LAN（有線）	○	○	○	○	○	○

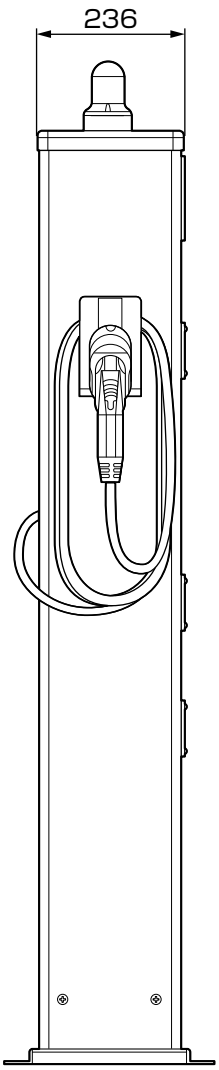
外形寸法

【単位：mm】

充電スタンド本体　※AF-XC330W1の図を記載しています。

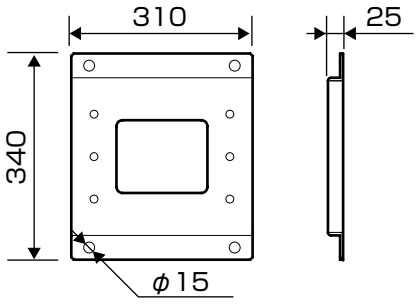


《正面》



《側面》

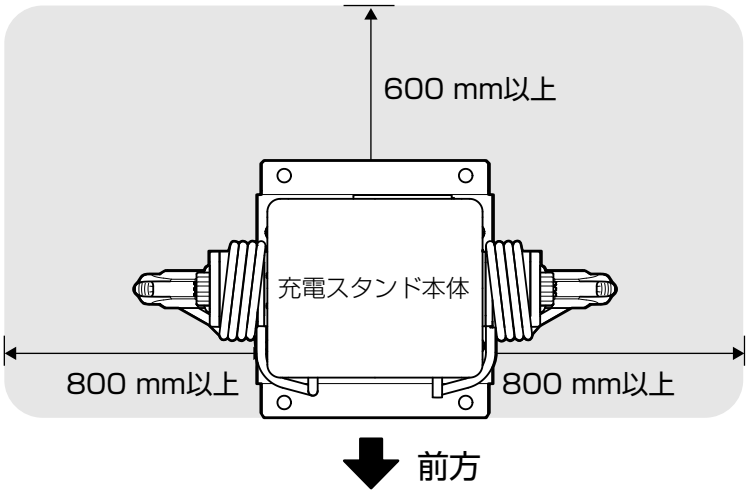
【取付ベース】



据え付け場所の制約 AF-XC330W1の図を記載しています。

■充電スタンド本体の据え付け制約

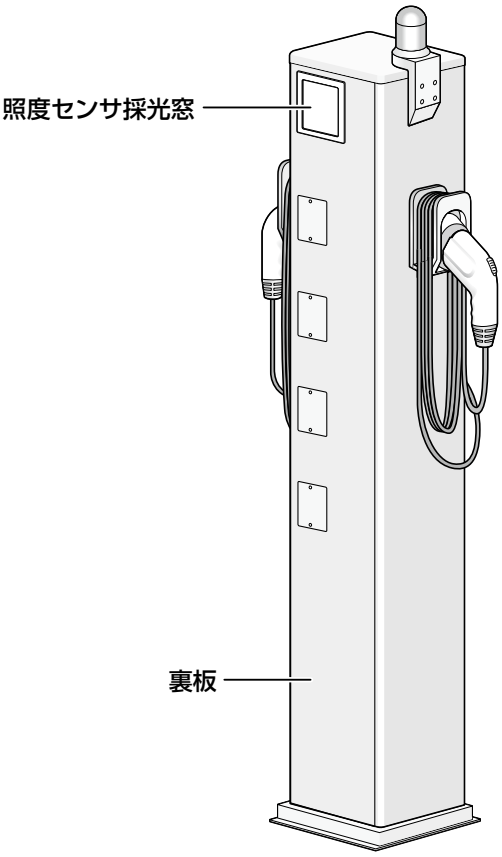
●裏板を外して作業をするため、後方に600 mm以上の作業スペースを確保してください。
●コネクタホルダに充電コネクタを挿抜するため、側面から800 m以上の作業スペースを確保してください。



【上から見た図】

ご注意

- 充電スタンド背面には、照度センサ採光窓がありますので、充電スタンド本体の背面を日陰などの暗くなる場所に設置すると、周囲が明るいときでも位置表示灯が点灯する場合があります。
- 充電ケーブル長は約7 mです。駐車スペースまでの距離を考慮し、充電スタンドの設置場所を選定してください。
- AF-XC300W1、AF-XC330C1、AF-XC330W1の場合、NTTドコモFOMAサービスエリア内で電波が妨げられない場所に設置してください。



基礎工事

【単位：mm】

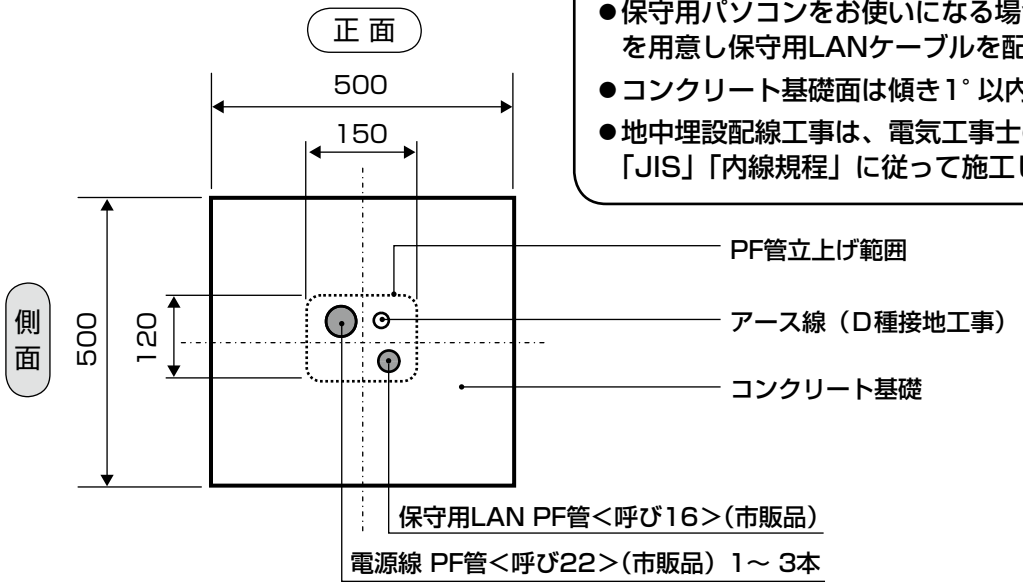
■コンクリート基礎工事

※コンクリート強度：160 kgf /cm²以上

ご注意

- ユニットを増設する可能性がある場合は、あらかじめ増設台数分も含めた電源線用PF管を立ち上げておく必要があります。
  （例）AF-XC330W1にユニットを1台増設予定
  ⇒PF管3本立ち上げ
- 保守用パソコンをお使いになる場合は、あらかじめPF管を用意し保守用LANケーブルを配線してください。
- コンクリート基礎面は傾き1° 以内で仕上げてください。
- 地中埋設配線工事は、電気工事士の有資格者が「JIS」「内線規程」に従って施工してください。

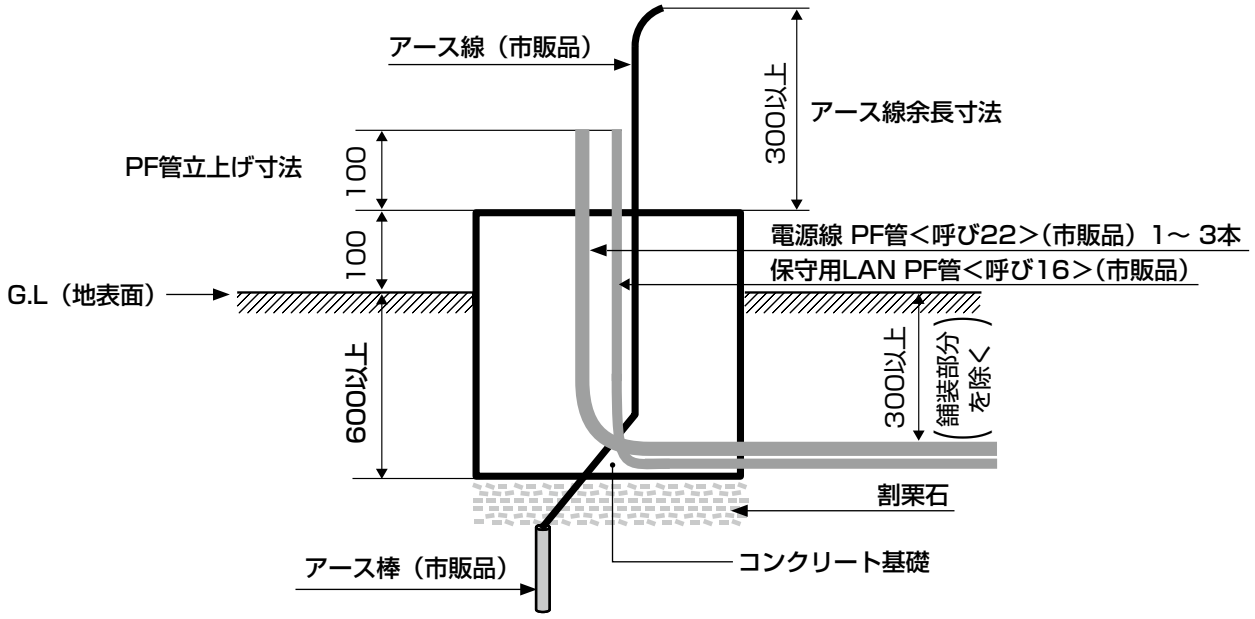
上面図



ご注意

- PF管は破線の範囲内で立ち上げてください。
  範囲を超えると施工できません。

側面図



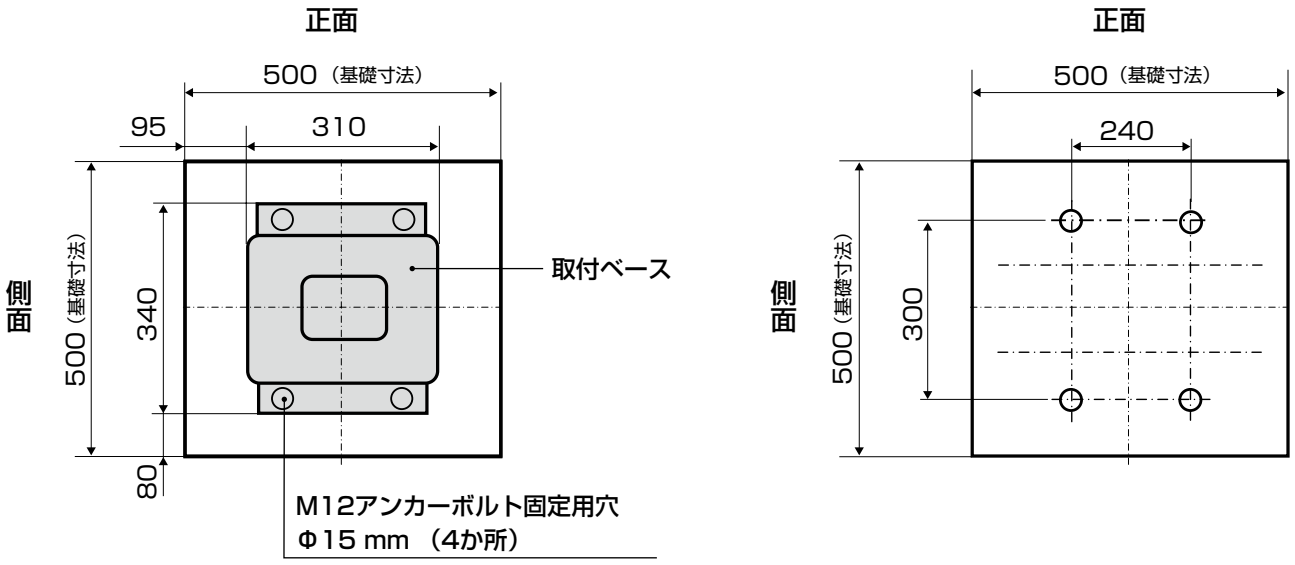
ご注意

- PF管の曲げ半径（内側半径）は管内径の6倍以上で曲げてください。
- 雨水や湿気侵入防止のため、PF管の先端はパテなどで密封してください。

据え付け手順

【単位：mm】

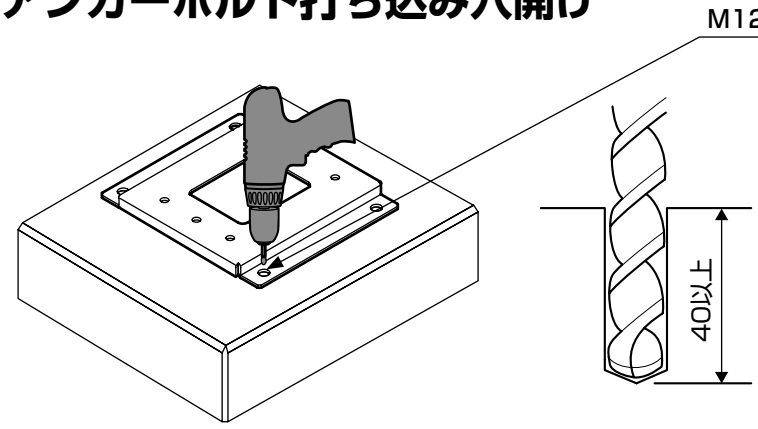
1 アンカーボルト施工寸法



ご注意

- 下穴径やアンカーボルトの施工については各メーカーの説明書に従ってください。

2 アンカーボルト打ち込み穴開け



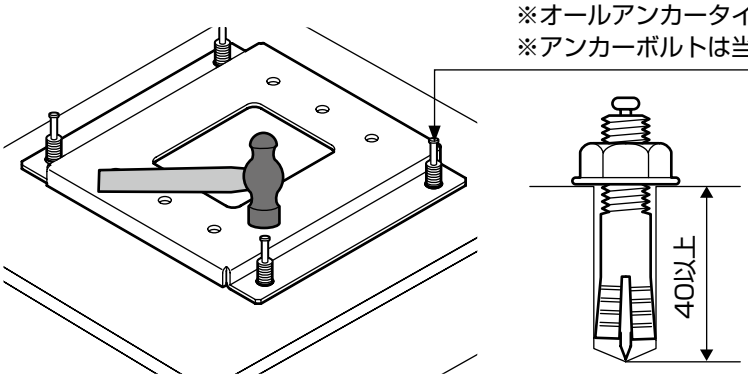
取付ベースを取付位置に仮置きし、穴あけをしてください。

ご注意

- アンカーボルトを40 mm以上埋め込めるように下穴をあけてください。
  転倒の原因になります

3 アンカーボルト打ち込み

M12おねじ式アンカーボルト（市販品）
※オールアンカータイプ　ステンレス製（市販品）を推奨します。
※アンカーボルトは当社では準備しておりません。

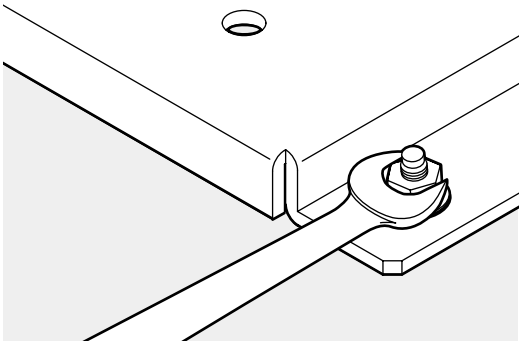


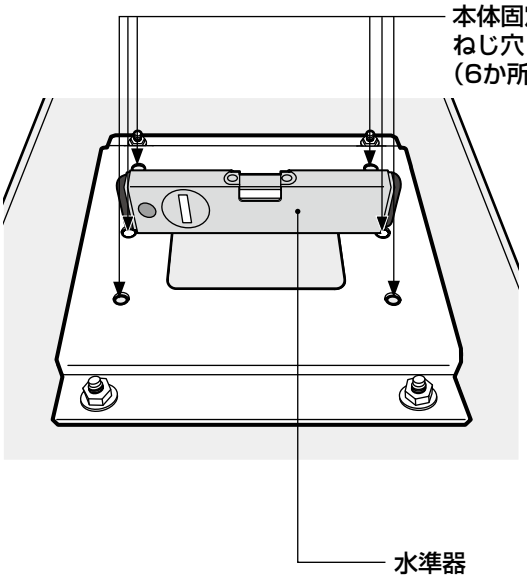
ご注意

- アンカーボルトは引抜強度300 kgf以上をご使用ください。
- アンカーボルトは40 mm以上(※)埋め込んでください。
  転倒の原因になります

※モルタル仕上げの厚さは除く。

4 取付ベースの固定



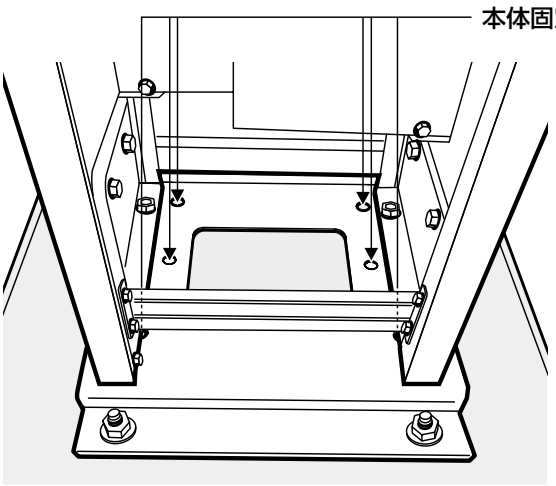


アンカーボルトを締めつけ後、水準器でレベルの確認（傾き1°以内）をしてください。

⇒レベル調整が必要な場合、シムなどで現場調整してください。

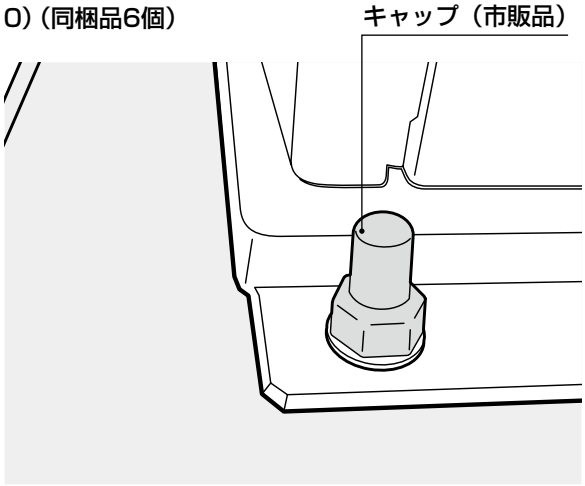
※締付トルクは、アンカーボルトの仕様をご確認ください。

5 充電スタンド本体の据え付け



裏板を外した状態で本体をベースに乗せ、裏面より本体固定ねじ（M10）で本体を固定してください。

M10 標準締付トルク：17.6 N·m



アンカーボルトは防さび・安全のためキャップを取り付けてください。

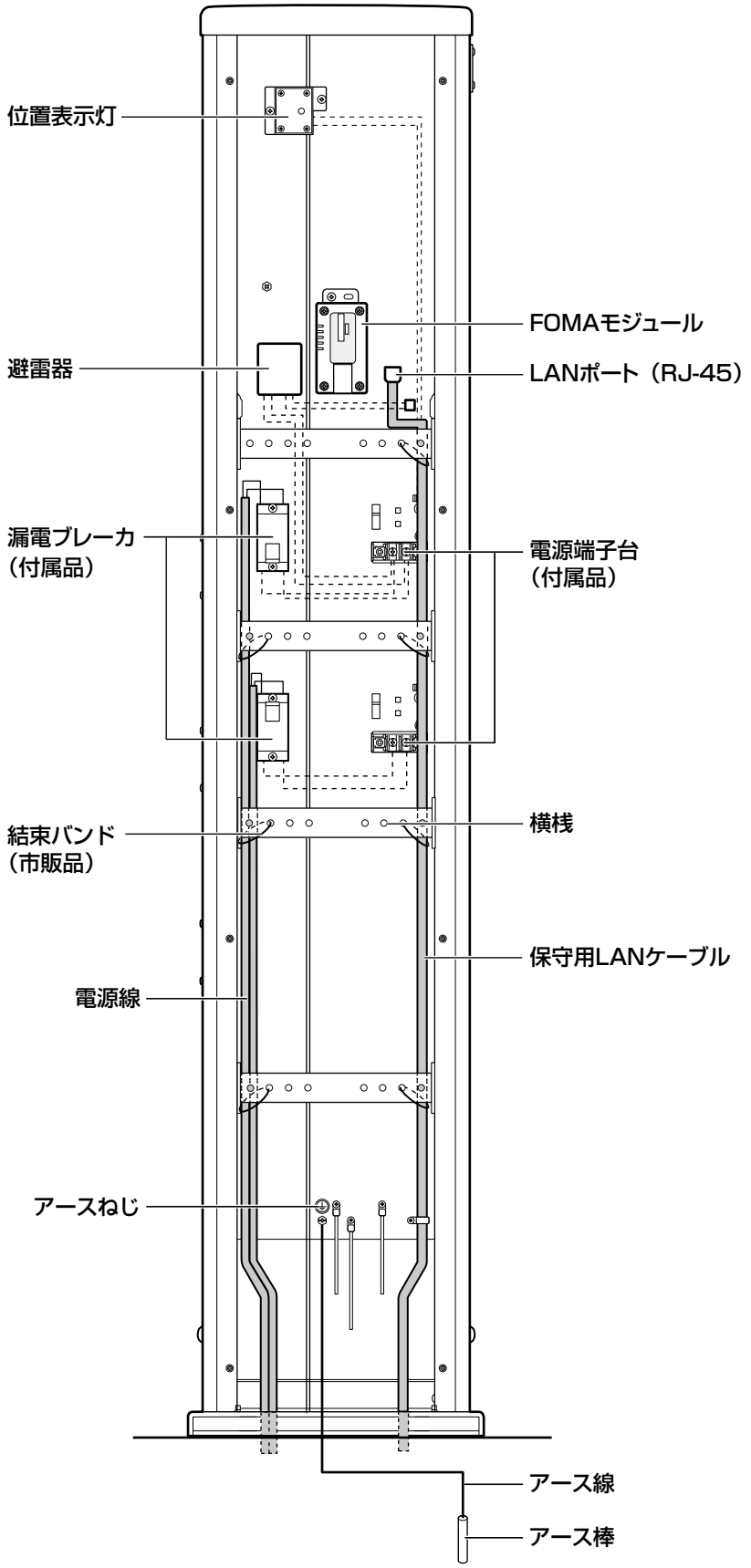
※キャップは市販のキャップをご利用ください。

電気配線工事

配線図

※AF-XC330W1の図を記載しています。

※点線は出荷時の配線を示しています。



⚠警告

必ず守る

- **配線工事は、「電気工事士」の資格がある方が、「電気設備の技術基準」、「内線規程」に従って施工し、必ず専用回路を使用する**
  感電・火災の原因になります。
- **D種接地工事（接地抵抗100Ω以下）を行う**
  感電・火災の原因になります。
- **必ずユニット1台ごとに、漏電ブレーカを設置し、専用回路とする**
  感電・火災の原因になります。

ご注意

- 製品内での分岐配線はできません。
- 電源線は、分電盤からの距離による電圧降下を考慮して配線してください。
- 漏電ブレーカへの配線は確実に接続してください。
- 配線は十分に余長をとり、結束バンドで、適所に固定してください。

1 漏電ブレーカへ電源線を接続する

配線図のように、漏電ブレーカの電源側に電源線を接続します。

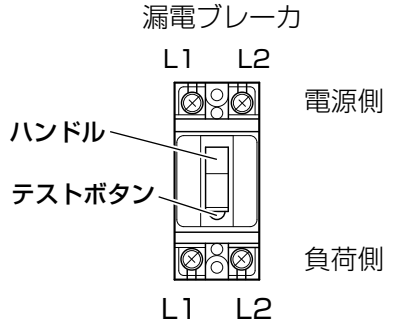
適合電線

下表の電線をご使用ください。

電源線 （VV 線）	【単　線】φ2.6 mm（2芯） 【より線】5.5 mm²（2芯）	• 分電盤からの配線

※定格容量（200 V/20 A）を考慮した配線設計をしてください。

漏電ブレーカへの配線方法



推奨締付けトルク　1.6 ～ 2.0 N・m

負荷側L1、L2の端子ねじを増し締めします。

■漏電ブレーカ仕様（付属品）

定格電流	感度電流	
30 A	15 mA	BJS3022N

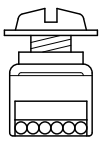
⚠警告

必ず守る

- **端子ねじは推奨締付けトルクで確実に締め付ける**
  接続不良は、発熱･発火の原因となります。

■漏電ブレーカのソルダーレス端子への直付け接続

- より線はほぐして、芯線をそろえてから接続してください。
- より線の先端のハンダ上げやバインドはしないでください。
- 電線の絶縁被ふくをかまないように接続してください。
- 機器用電線など、細かいより線（3.5 mm²以下）は使用しないでください。

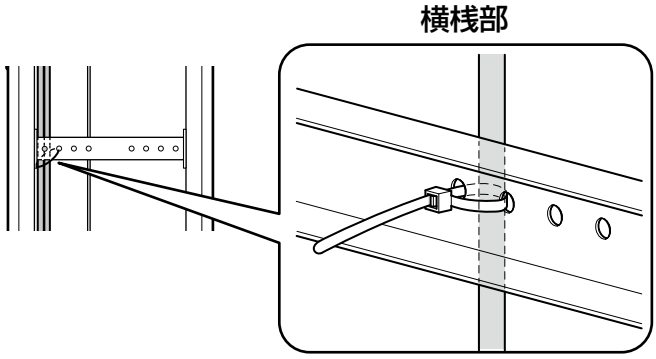


ソルダーレス端子

より線（5.5 mm²）の接続例

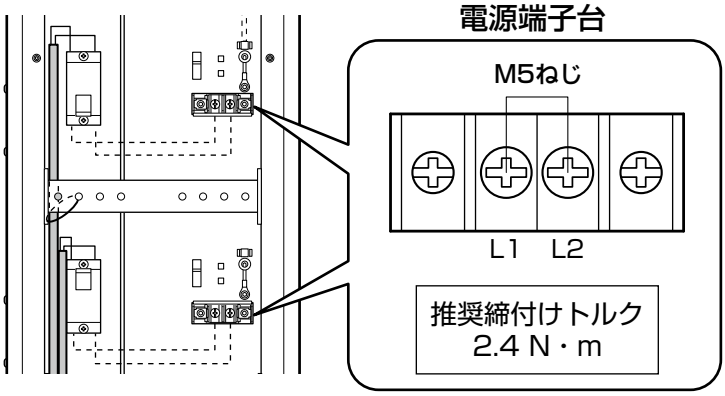
2 電源線を張力止めする

電源線を図のように、結束バンドで張力止めします。
横桟には、結束バンドが固定できるように穴が開いています。
裏板をつけた状態で、電源線が漏電ブレーカのハンドルに当たらないように配線してください。

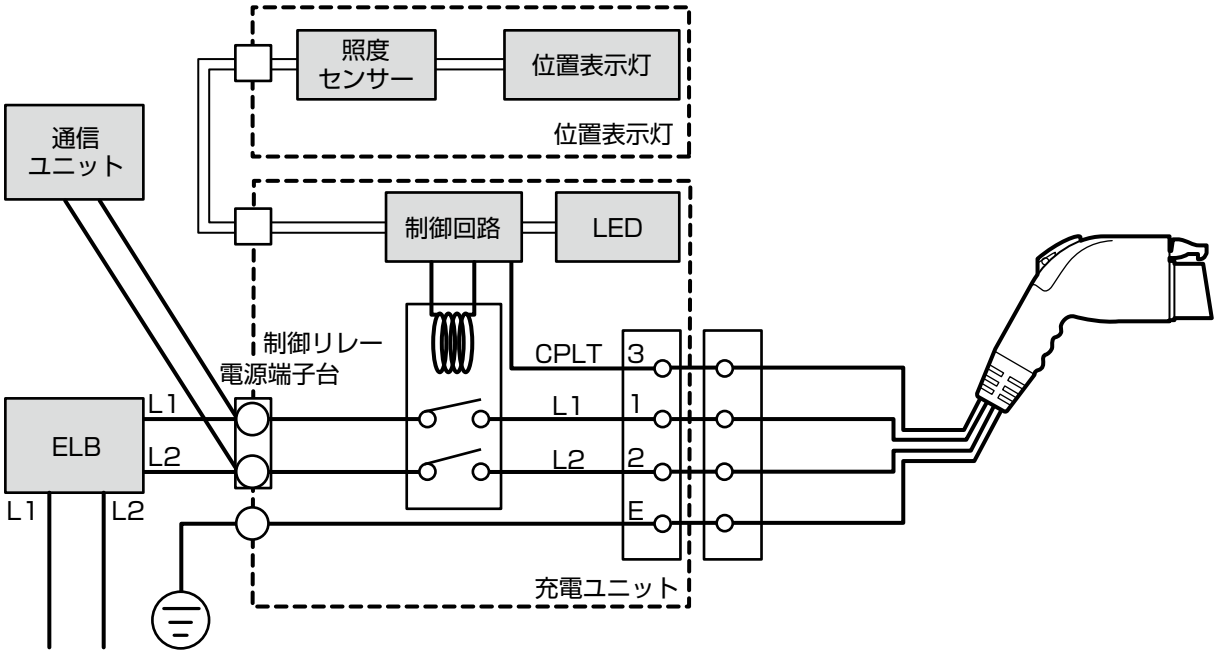


3 電源端子台のねじを増し締めする

出荷時の配線が接続されている電源端子台のM5ねじを増し締めします。



■内部配線図



4 保守用LANケーブルを配線する

保守用パソコンをお使いの場合は、あらかじめ保守用LANケーブルを配線してください。
適合LANケーブル

LANケーブル	推奨：屋外用ラップシース　エンハンスド　カテゴリ5および LAN用避雷器（市販品）	• ケーブル長50 m以下

5 保守用LANケーブルを張力止めする

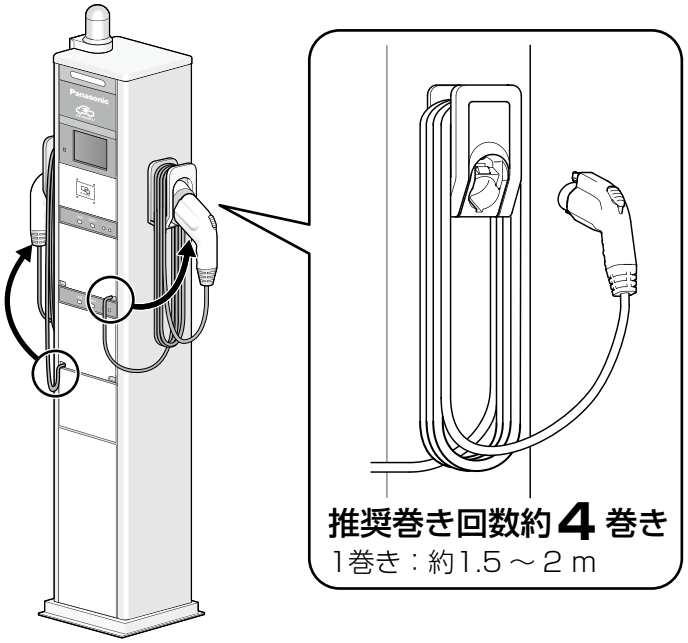
背面の右端を通し、電源線と同様に結束バンドで横桟に固定します。

6 保守用LANケーブルを通信ユニット背面のLANコネクタに差します

充電ケーブルの取り付け

1 充電ケーブルを充電コネクタホルダに巻き付ける

充電ケーブルが左右2本ある場合、右側から出ている充電ケーブルは右側へ、左側から出ている充電ケーブルは左側へセットしてください。



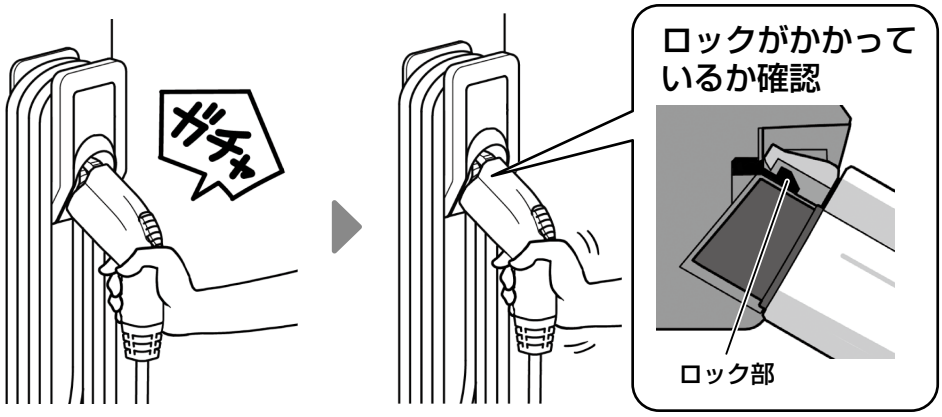
⚠注意

必ず守る

- **充電ケーブルは、地面に触れないように巻き付ける**
  足の引っ掛けや充電ケーブルが傷つく原因となります。
- **充電ケーブルは、推奨巻き回数になるように巻き付ける（約4巻き　1巻き：約1.5～2 m）**
  推奨き巻回数を超えて巻き付けると、充電ケーブルが屈曲して、被覆が破れたり断線するおそれがあります。
  感電・発火の原因となります。

2 充電コネクタを充電コネクタホルダに差し込む

①充電コネクタを充電コネクタホルダに差し込む。
②充電コネクタが外れないように、ロックが掛かっていることを確認する。



ディップスイッチの設定

⚠警告

必ず守る

- **裏板を開け、ディップスイッチを操作する場合は、必ずすべての漏電ブレーカを「切」にしてから作業する**
  感電の原因となります。
- **充電電流設定をするときは、電源線や漏電ブレーカの許容電流を超えない値に設定する**
  発熱・発火の原因となります。

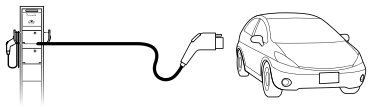
●設定を変更する場合は、雨天時を避け、雨水が吹き込まないように注意して作業をしてください。

■ディップスイッチでは、下記のような設定ができます。
充電モード設定と充電タイマー設定は、基本的に工場出荷時の初期設定のままお使いください。

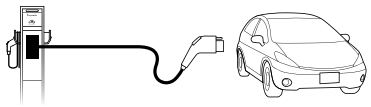
設定内容	内容説明	設定可能範囲
充電モード設定	**充電できる車両（充電モード）を設定します。※1**	Mode1/3車両共用 （初期設定固定）
充電電流設定	**充電時の最大許容電流値を設定します。** 車両は最大許容電流値範囲内で充電を行います。 ※常に最大許容電流値で充電を行うわけではありません。 一般的に最大許容電流値の設定値が大きいほど、充電容量が大きくなるため、満充電までの時間が短くなります。	① 6 A ② 8 A ③10 A ④12 A ⑤14 A ⑥16 A（初期設定） ⑦18 A ⑧20 A
充電タイマー設定	**充電時間を設定します。**	連続充電 （初期設定固定）

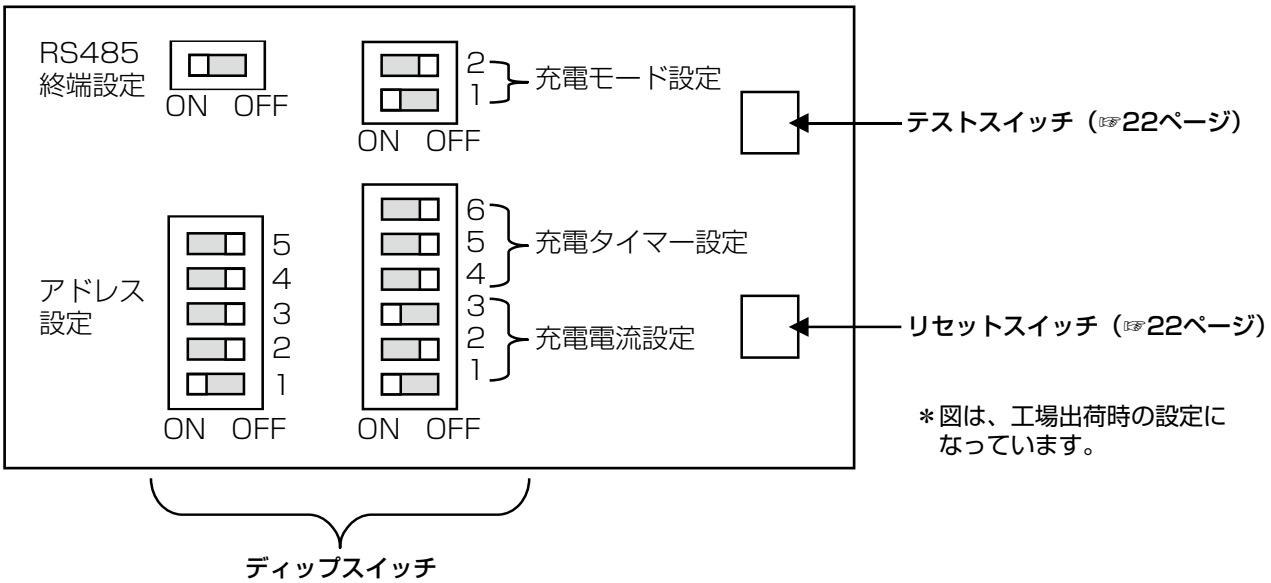
※1 設定できる充電モードは以下の2種類です。（国際規格 IEC61851-1）

Mode1…電源供給のみ（制御回路なし）



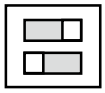
Mode3…充電スタンド側に制御回路内蔵



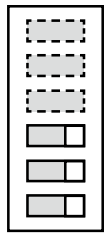
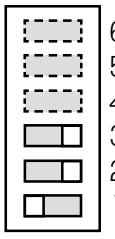
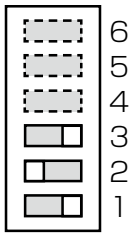
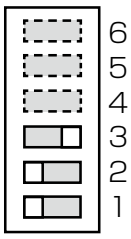
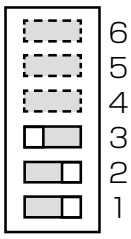
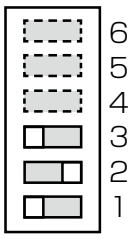
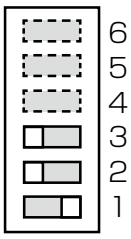
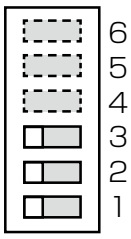


ディップスイッチの設定方法

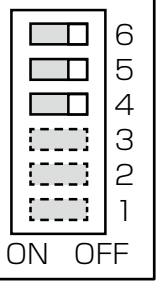
●充電モードの設定方法　初期設定のままお使いください。

Mode1車両・Mode3車両共用（初期設定）


●充電電流の設定方法　下図のいずれかに設定してください。

①6 A	②8 A	③10 A	④12 A	⑤14 A	⑥16 A（初期設定）	⑦18 A	⑧20 A
							

●充電タイマーの設定方法　初期設定のままお使いください。

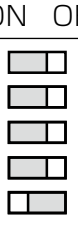
連続充電（初期設定）


●RS485終端設定とアドレス設定　工場出荷時の初期設定のままお使いください。

※AF-XC300N1、AF-XC300W1の場合

	上段充電ユニット
RS485終端設定	
アドレス設定	

※AF-XC330C1、AF-XC330W1、AF-XC330R1、AF-XC330N1の場合

	上段充電ユニット	下段充電ユニット
RS485終端設定		
アドレス設定		

FOMA通信用SIMカードの取り付け

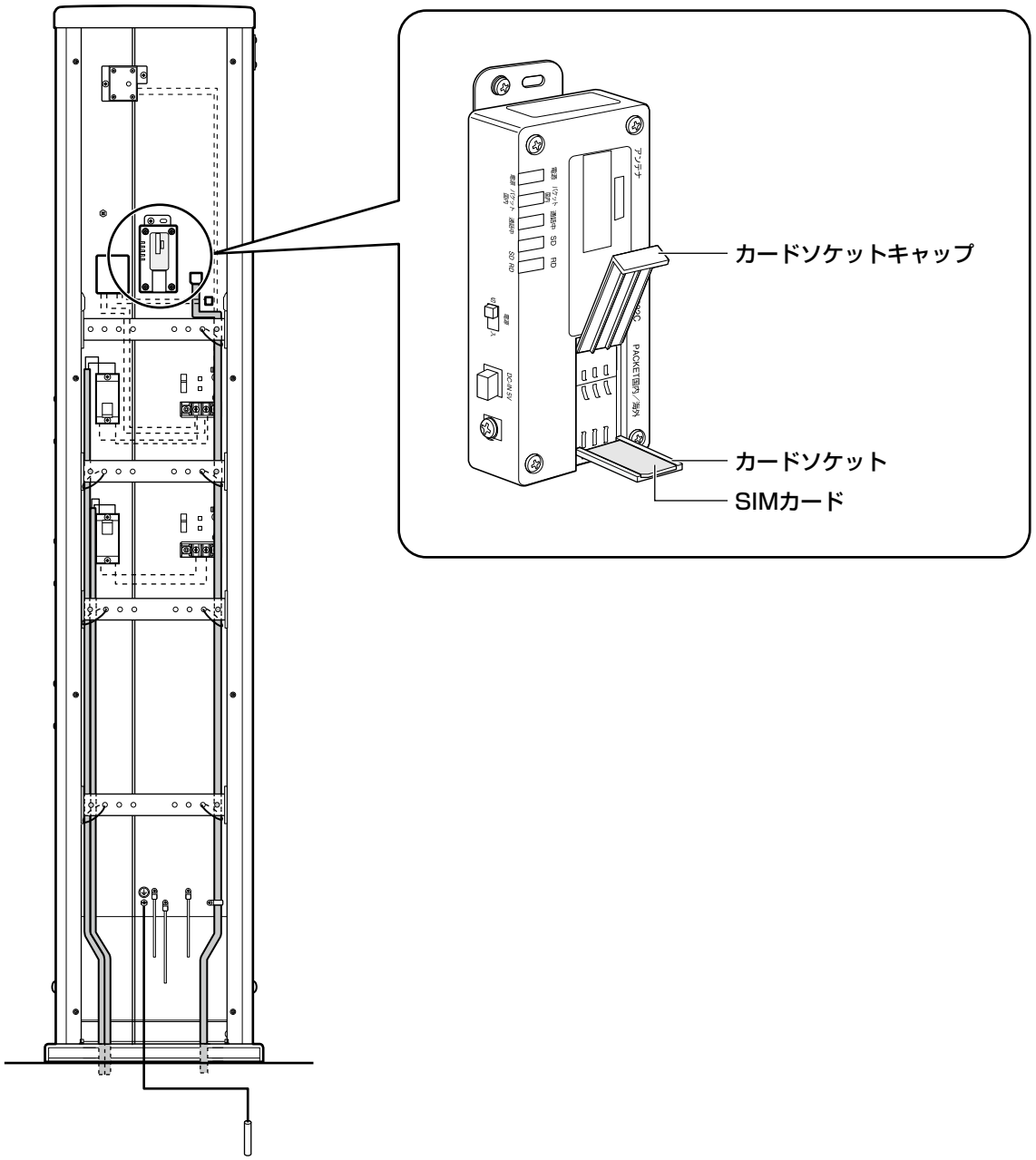
AF-XC300W1、AF-XC330C1、AF-XC330W1でFOMA通信を使用する場合は、本体背面の配線スペースにあるFOMAモジュールに、FOMA通信用のSIMカード（FOMAカード）をあらかじめ取り付けてください。なお、FOMA網を経由しサーバーと接続するには、「FOMAサービス」の利用契約が別途必要です。

⚠警告

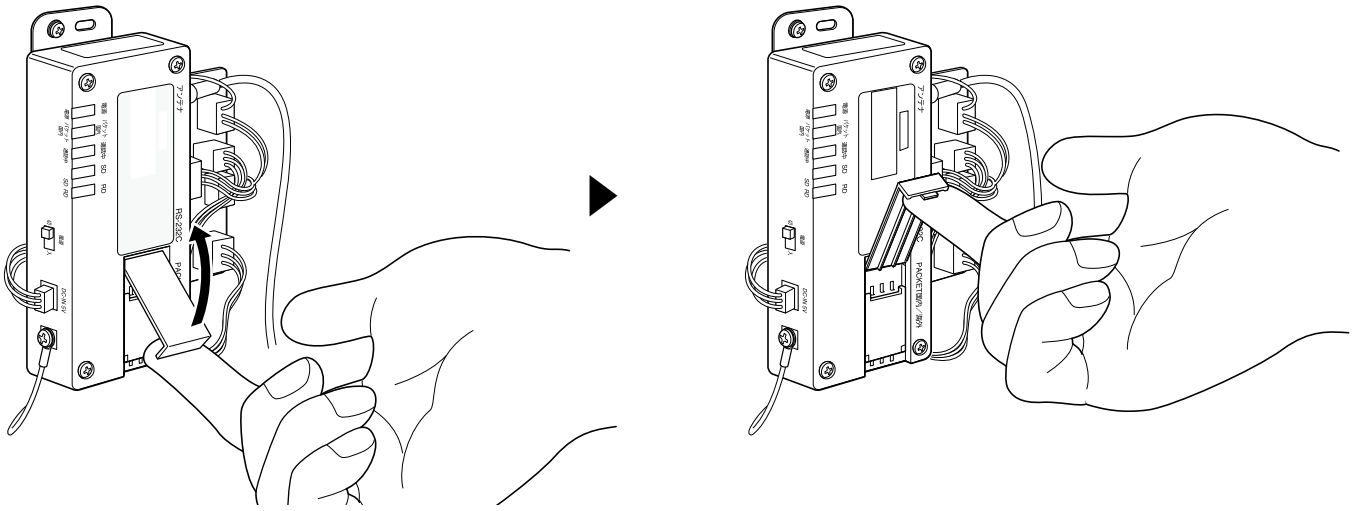
必ず守る

- **裏板を開け、SIMカードの着脱を行う場合は、必ずすべての漏電ブレーカを「切」にしてから作業する**
  感電の原因となります。
- **裏板を開け、SIMカードの抜き挿しを行う場合は、必ず電源を「切」にしてから作業する**
  データ破損およびFOMAカード破損の原因となります。

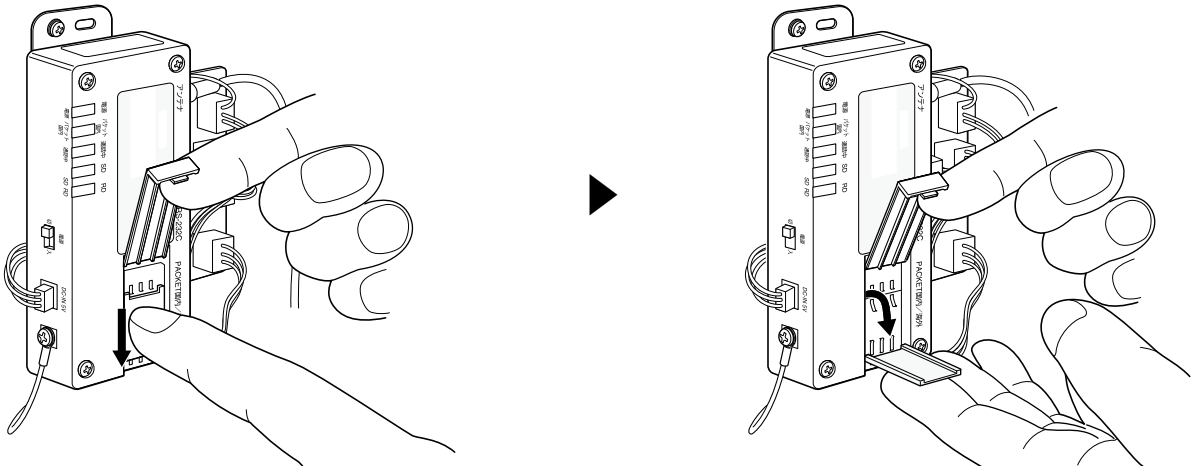
●SIMカードの抜き挿しを行う場合は、雨天時を避け、雨水が吹き込まないように注意して作業をしてください。



1 FOMAカードソケットキャップを開ける



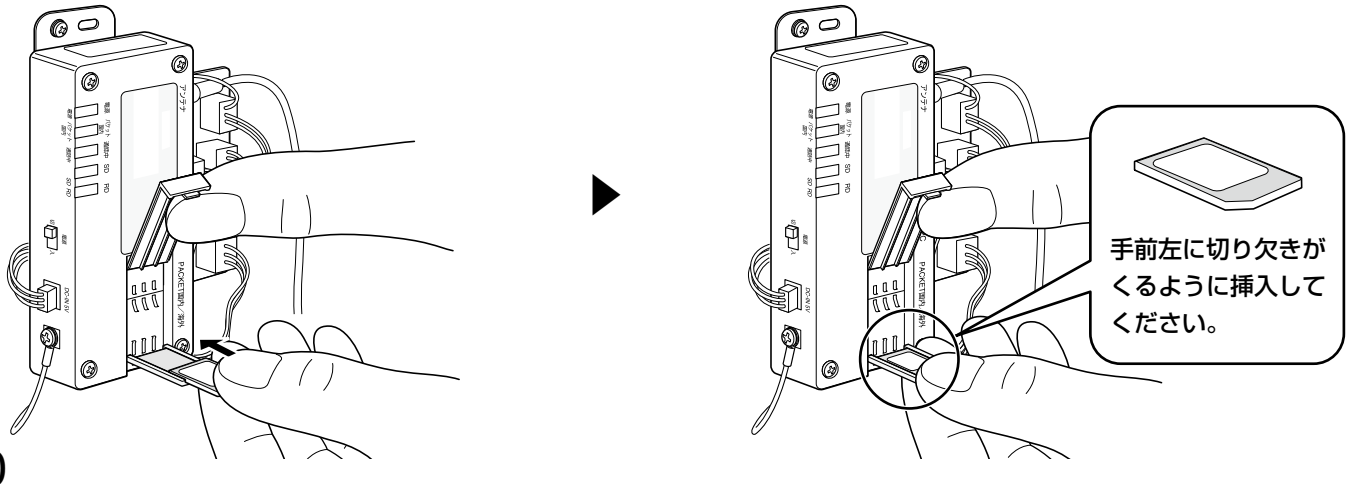
2 FOMAカードソケットのロックを外す



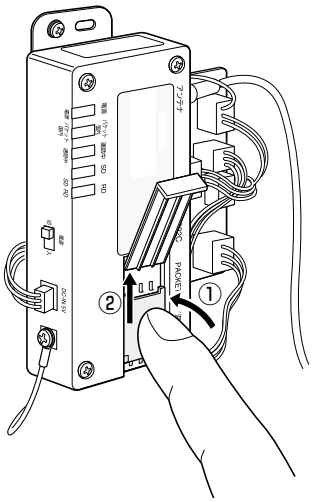
3 SIMカードをFOMAカードソケットに挿入する

重要

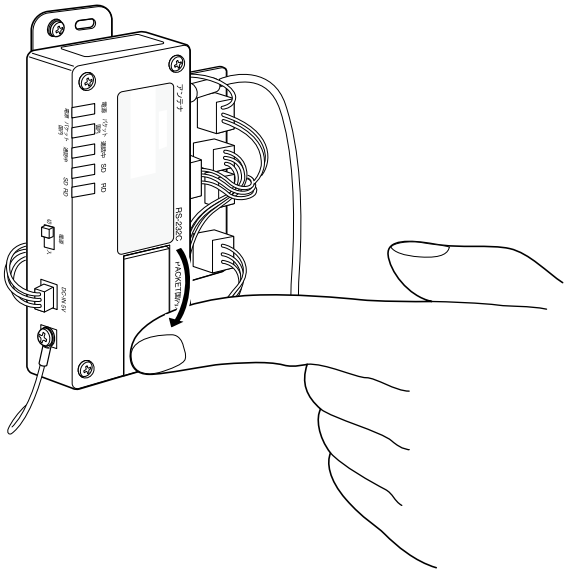
●SIMカードの向きに注意して挿入してください。



4 FOMAカードソケットを元の位置に戻し、上にスライドさせる



5 FOMAカードソケットキャップを閉じる



動作確認（引き渡し前の確認）

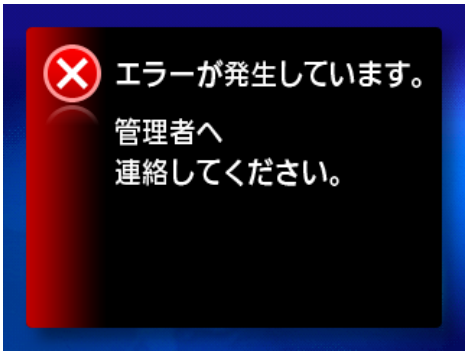
●施工後は、下記の手順に従って、動作確認をしてください。

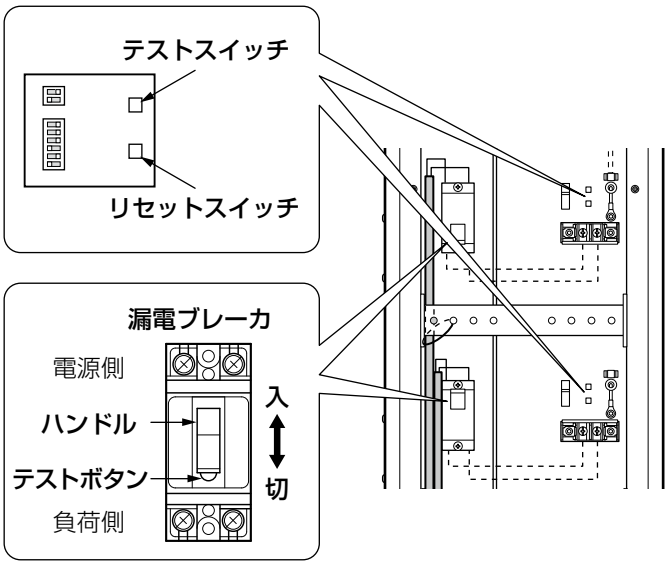
1 電源を入れる

①漏電ブレーカを下から順番に「入」にします。
最後に一番上の漏電ブレーカを「入」にします。
※順番を間違えると正常に起動しない場合があります。
※AF-XC300N1とAF-XC300W1は、漏電ブレーカは１個です。
②充電ユニットの電源LEDが点灯することを確認します。
③2 ～ 3分後にタッチパネルにトップメニュー画面が表示されます。充電ボックスが「使用可能」となっていることを確認します。

2 漏電保護機能の確認

①テストスイッチを押します。
②エラー LEDが点灯し、充電中LEDが点滅することを確認します。
③タッチパネルにエラー画面が表示されることを確認します。
④リセットスイッチを押して、エラー LEDと充電中LEDが消灯することを確認します。
トップメニュー画面が表示されます。



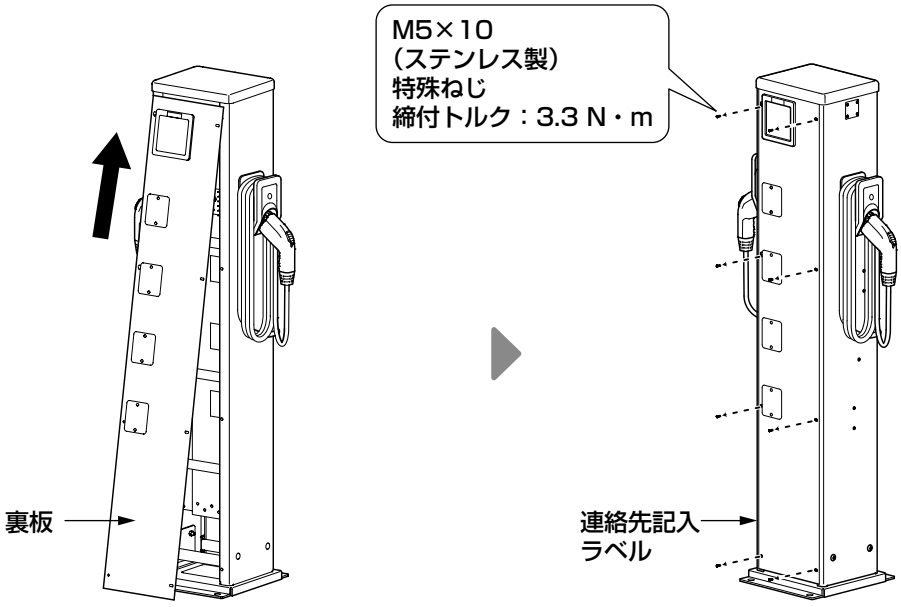


3 漏電ブレーカの動作確認

①漏電ブレーカのテストボタンを押します。
（☞22ページ）
②漏電ブレーカが「切」になることを確認します。
③漏電ブレーカを下から順番に「入」にします。
最後に一番上の漏電ブレーカを「入」にします。
※順番を間違えると正常に起動しない場合があります。
④充電ユニットの電源LEDが点灯することを確認します。
⑤2～3分後にタッチパネルにトップメニュー画面が表示されます。充電ボックスが「使用可能」となっていることを確認します。

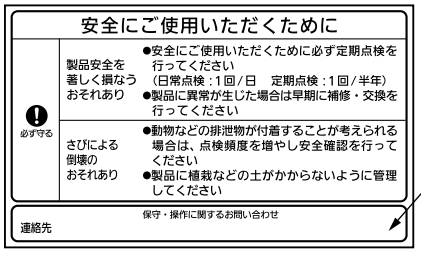
4 裏板を取り付ける

①裏板を斜め上方向にずらして天面部にはめ込みます。
②同梱の特殊工具を使用し、裏板特殊ねじ（8か所）を取り付けます。



5 連絡先の記入

充電スタンド本体の側面に貼付されているラベルの連絡先欄に、管理者様の連絡先をご記入ください。

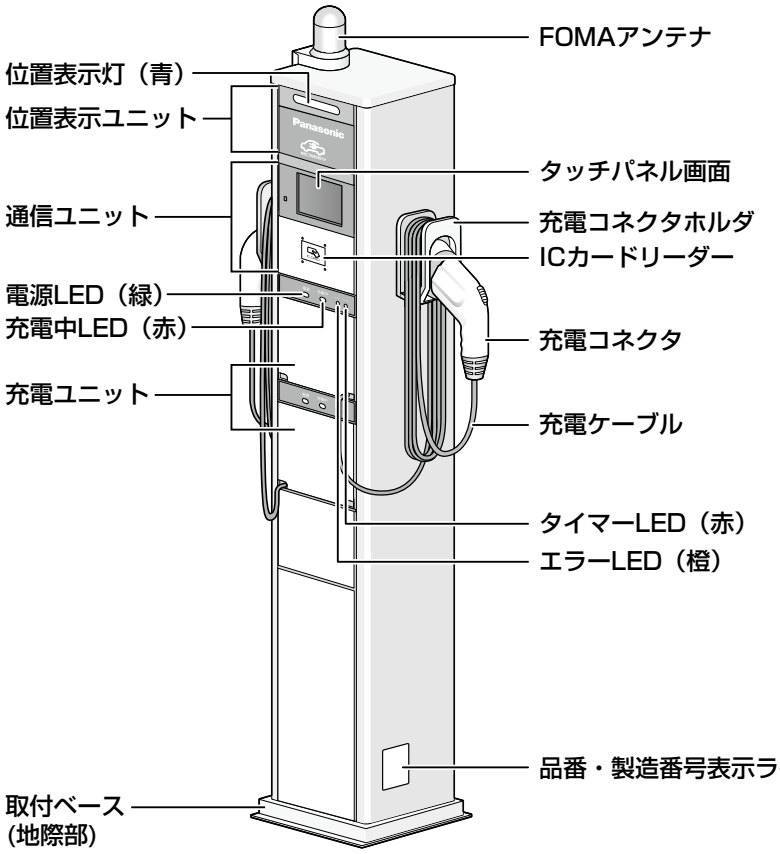


管理者様の連絡先をご記入ください。

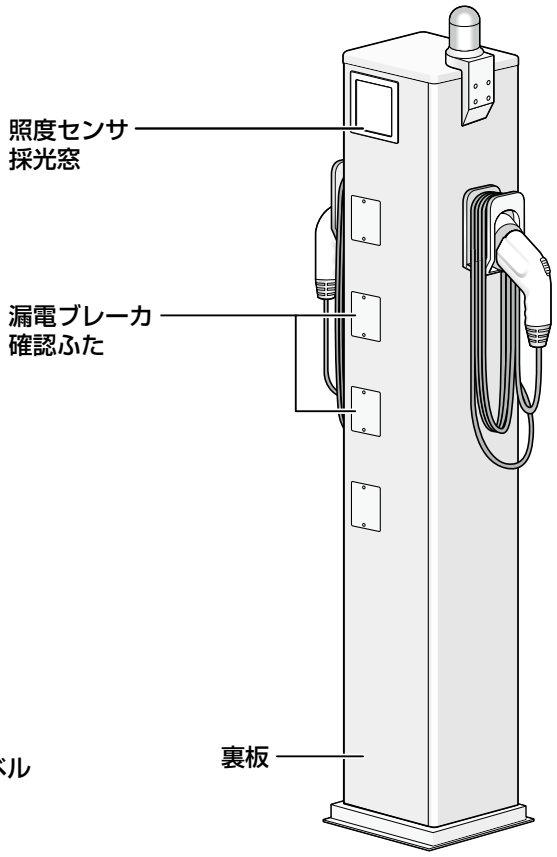
施工確認図

【単位:mm】

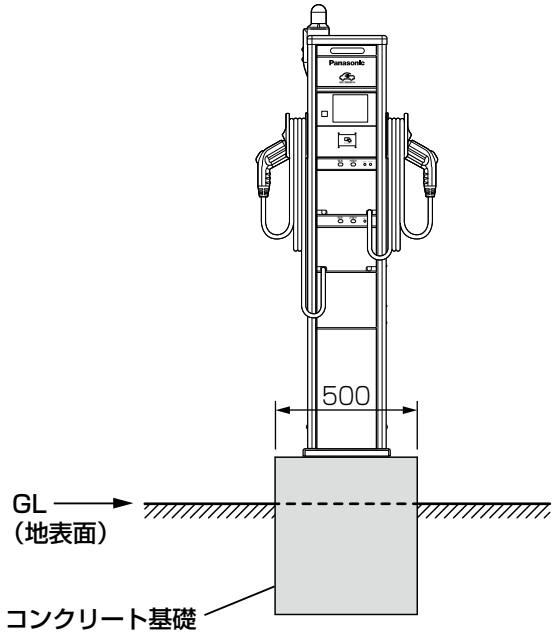
●施工後は、25ページの施工確認チェックリストに従って、下図のように施工されているか確認してください。



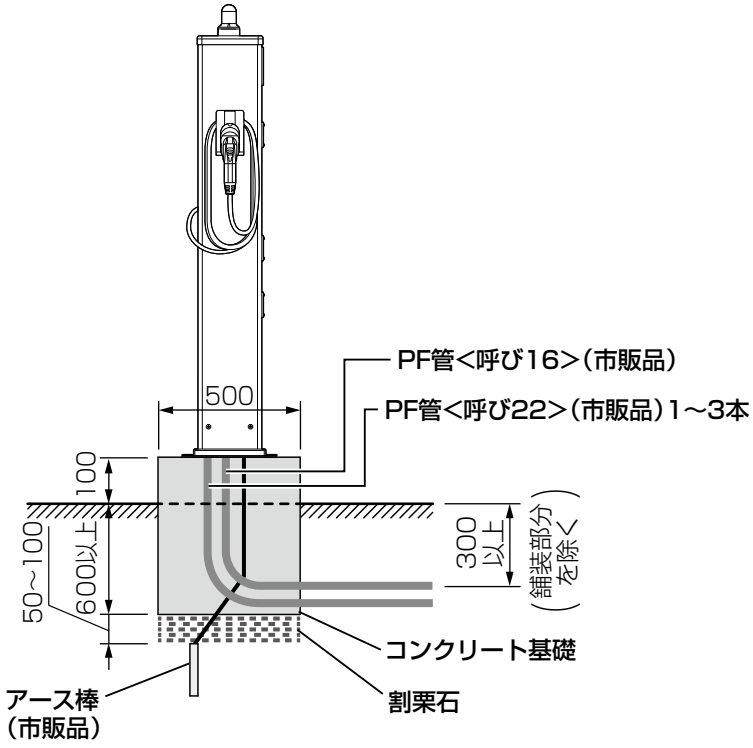
《正面》



《背面》



《正面》



《側面》

施工確認チェックリスト

据え付け工事後は、必ず下表にあげた項目を確認してください。
不具合があった場合は、必ず修正、修理を実施してください。

施設名：　　施工日：

施主名：　　工事店名：

施工責任者	施工担当者

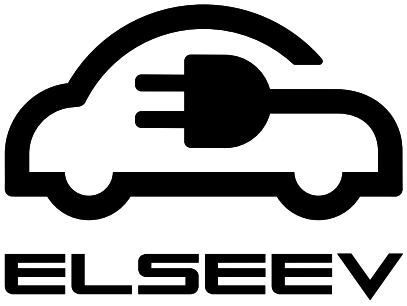
【据え付け後のチェック項目】

			判定
基礎工事	1	コンクリート基礎面は傾き1°以内ですか？	
	2	コンクリート基礎寸法は施工説明書どおりですか？	
	3	配管・アース線の接続は施工説明書どおりですか？	
据え付け状態	1	アンカーボルトの埋め込み深さ（40 mm以上）は適切ですか？	
	2	アンカーボルトは、確実に締め付けられていますか？	
	3	アンカーボルトにキャップがされていますか？	
	4	本体の固定ねじは確実に締め付けられていますか？	
	5	充電スタンド本体に傾きはないですか？	
	6	充電スタンド本体のぐらつきはないですか？	
	7	裏板はすき間なく取り付けられていますか？	

【配線工事後のチェック項目】

			判定
配線工事	1	配線は正しく確実に配線されていますか？	
	2	アース線はD種接地工事がされていますか？	
	3	張力止めが施されていますか？	
動作確認	1	電源LEDは正しく点灯していますか？	
	2	漏電保護機能は正しく動作しますか？	
	3	漏電ブレーカは正しく動作しますか？	
	4	タッチパネルにトップメニュー（使用可能）が表示されていますか？	
引き渡し確認	1	充電スタンド本体の側面のラベルに連絡先が記入されていますか？	
	2	充電ケーブルは、推奨巻き回数（約4巻き　1巻き：1.5 ～ 2 m）で巻き付けていますか？	
	3	充電コネクタは、充電コネクタホルダに取り付けていますか？	

メモ



本機は外国為替および外国貿易法に定める規制貨物、規制役務に該当しますので、輸出する場合には、同法に基づく輸出許可を取得するなどお客様の責任において、必要な手続きをお取りください。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック　システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル 携帯PHS OK **0120-878-410**（バナハ　ヨイワ）　**受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは　https://sec.panasonic.biz/solution/info/

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニックSSインフラシステム株式会社

〒224-8539　神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地

© Panasonic System Solutions Infrastructure Co., Ltd. 2012

PYQX1012YA/J1
N0112-1072